

第4章

学生の「授業改善のためのアンケート」調査結果

第1節 共通型アンケート調査結果

1. 共通型アンケートの実施要領等

1-1 共通型アンケート実施要領

- (1) 共通型アンケートは、1・2年生については語学授業時間時に、3・4年生についてはゼミナールに依頼して行う。1・2年生は、欠席者を除きほぼ全体がアンケート配布対象とされているが、3・4年生のゼミナールに所属していない学生のために学生ホールにアンケート用紙と回収ボックスを配置する。
- (2) アンケートの配布は担当教官が行い、回収は教官もしくは学生の代表がおこなう。
- (3) 集計は大学評価委員会が実施する。
- (4) 授業科目別の集計はせず、講義・研究指導等に対する学生の全般的な評価を示す。

1-2 アンケート回収率

回収総数は661、全在学者数は2,547で、回収率は26.0%にとどまった。回答者数、回収率とも年々減少傾向を示しており、今年度の回収率を見る限り、学生全体の評価傾向を推定するには十分なアンケートになったとはいえない。その上、2年生の回収率が53.8%と比較的高いことを除けば、他の学年では回収率が極めて低い。語学授業時間に実施した1年生で26.2%、ゼミナール単位で依頼した3,4年生は15%に達しなかった。

実施方法の再検討とともに、アンケートの設問内容、長さ等の改善、更には学生が負担する回答へのコストが、授業改善にどのように反映されているか等、学生にベネフィットが見えるようにする努力が必要である。

回収率で、もう一つ留意しておかねばならないのは、夜間主学生における回収率が9.7%と極めて低いことである。夜間主在学者総数435に対し、回答数は42である。夜間主学生の授業やゼミナールに対する全般的な評価を知るためには、より高い回収率のアンケートを実施しなければならないであろう。

回収票の学年別構成を見ると、1年生が23.4%、2年生が48.1%で、この両学年で全体の72%を占めている。回答者全体の回答傾向を見る場合には、このような偏りがあることを認識しておく必要がある。

2. 回答の傾向

シラバスの授業科目選択の上での有用性については、「非常に役立った」とするものが全体の25%近くみられ、「かなり役立った」を加えると78%近い。1年生、2年生ともほぼ同じ傾向が見られることから、授業科目を選択する上で、学生の間でシラバスの有用性は評価されていると見ることができる。ただ、この質問項目は、受講、課題、評価等の全受講プロセスでシラバスがきちんとしたガイダンスの役割を果たしているかについて問うたものでない。本学のシラバスの有

用性調査については、担当教員がこれをどの程度活用しているかというレベルに移行すべき時期であろう。

授業時間割の編成については、昨年度に引き続き満足度が低い。特に、1年生の間での不満が37%みられ、とりわけ「極めて不適切」が13%余り見られる点は看過できない。不満の内容についての更に詳しい聞き取り調査などが必要である。

カリキュラムの適切さに関しては、2年生の回答を基準に考えると、適切だと受け止めている者は全体の3分の1程度で、消極的な肯定を含めると全体の70%余りは現在のカリキュラムに肯定的である。しかし、大学としては、不適切であるとする回答が27%で、全体の4分の1に達していることに注目し、その理由を明らかにする必要があるだろう。

成績評価に関しては、適切であったとするものが46%と高く、「どちらともいえない」を加えると85%に達する。

望ましい教師像に関しては、「わかりやすい講義をする」「学問に対する関心を高めてくれる」の両項目への回答が、それぞれ50%、40%ほどで回答を二分している。しかし、これら二つの要素は両立するものであり、この回答結果をもって「望ましい教師像」を示すには限界があるだろう。

「望ましい教師」の全教師中に占める比率に関する回答も、評価が分かれるところである。50%以上見られるとする回答が59%あることを喜ぶべきか、50%かそれ以下とする回答が75%を占めることを深刻に受け止めるべきかという問題である。

教室の設備に関する回答は、やや不適切であるとするものが26%みられ、極めて不適切とするもの4%を加えると30%になる。この設問は、教室の広さ、マイク、照明等と広く設備の適切さを問うており、不適切とされているのが主に何に起因するものかが特定できない。更なる調査が必要であり、それなくしては改善の方法が決められない。

ゼミに関しては、1年生の間でのゼミ所属希望は78%と高く、ゼミへの所属が1年生のときから当然視されていることがわかる。2年生でゼミに既に所属する者と、所属が内定している者は、回答者の96%に達しており、実際にもゼミ所属への意欲は高い。

しかし、2年生のゼミ所属の理由は、「大学に入ったからにはゼミを取るべきだと思うから」が58%と最も高く、「興味のある科目のゼミがあるから」の34%を上回っている。ゼミへの所属義務感だけが先行していないことを願いたい。

所属ゼミへの満足度については、70%以上が満足・かなり満足と回答している。しかし、2年生は実際にはゼミ経験がない内定者を6割近く含んでおり、3年生以上ではこの調査がゼミを途中でやめた者などを対象にしていないことから、この回答結果については、幾分割り引いて解釈する必要があるだろう。

第2節 個別型アンケート調査結果

1. 個別型アンケートの実施要領等

1-1 個別型アンケート実施要領

- (1) 個別型アンケートは、各授業科目の受講生を対象として実施する。
- (2) アンケートの配布及び回収は各教官等が行ない、集計は大学評価委員会で実施する。
- (3) 集計は、基本的に「コース・科目」別と「学科等」別（学科等は、学生の所属ではなく、授業担当教官の所属）に実施する。

「コース・科目」：コース（昼間、夜間主）、科目（講義、語学、実技）

「学科等」：コース（昼間、夜間主）、授業担当教官の所属（経済学科、商学科、企業法学科、社会情報学科、一般教育、言語センター）

- (4) 授業科目が特定されるような内容は公表しない。

1-2 アンケート実施率及び回収率

アンケート実施率（実施科目数/開講科目数）は、全体で79%であり、この傾向は最近3年間ほとんど変化していない。また、回収率（回収数/履修者数）は、全体で28%であり、履修者数には最終的に履修しなかった学生も含めている。このため、実際よりも低い数値が示されている。回収率は、コースと授業担当教官の所属によって大きく異なり、昼間コース開講の言語センターの科目は回収率58%、夜間主コースの科目では回収率35%、その他は20%である。この結果は、必修科目であることや授業で出席をとること等の影響も考えられる。

2. 学生の状況

2-1 回収票の学年別構成

回収票の学年別構成としては、1年生が高い比率をしめており、回収票のうち1年生の票は、講義科目で37%、語学科目で48%、実技科目で71%をしめる。

2-2 科目の選択理由

科目の選択理由としては、語学科目に関して「必修科目・選択必修科目であるから」という理由の選択が95%と多い。また、実技科目に関しては、「シラバスを読み興味を持った」76%と「単位の取得が容易」72%が、多く選択された理由である。

2-3 学習態度

出席率は、全体で「ほぼ100%出席した」が51%、「80%位出席した」が36%であり、実技科目では、95%以上の学生が授業を80%以上出席したと回答している。欠席の理由としては、全体で「自己怠惰のため」が43%であり、「サークル活動のため」は昼間コースで高く、「アルバイトのため」は夜間主コースで高い傾向にある。

授業の予習復習は、全体で「ごくまれにしか行なわなかった」が14%、「ほとんど行なわな

かった」が50%であり、昼間コースの講義科目では、「ほとんど行なわなかった」が60%と多い。予習復習をしなかった理由は「必要を感じなかったため」が55%であり、多くの学生が予習復習を行わず、学生の意識としては必要性を感じていないことがわかる。

テキストについては、指定があるにもかかわらず、「入手しなかった」が13%である。また、その有用性については、「どちらともいえない」が43%である。

以上の学生の状況は、学生が判断した自分自身の状況を回収票に基づいて集計したものであるため、実際の状況とは異なるものであることを注意する必要がある。

3. 授業に対する満足度

授業に対する満足度について、「学科等」別において顕著な差が見られ、肯定的な意見が全体と比較的大きな乖離（+10%ポイント、-15%ポイント程度の差）を示した項目と学科等名を、表4-1に挙げる。これによると、肯定的な意見は、商学科、一般教育、言語センターに多く、社会情報学科に少ないことがわかる。

表4-1 肯定的な意見の状況（全体と比較的大きな乖離のある項目のみ）

質 問	肯定的意見が多い	肯定的意見が少ない
IV(3) 講義内容は理解しやすかったですか？	一般教育（夜）、言語（夜）	社会情報（昼）
IV(4) 教師は講義内容に興味を持たせるよう工夫していましたか？	一般教育（夜）、言語（夜）	社会情報（昼）
IV(5) 教師は学生の質問に丁寧に答えていましたか？	言語（昼）	企業法（昼、夜）
IV(6) 教師は熱意を持って講義していましたか？	一般教育（夜）	社会情報（昼）
IV(7) 講義内容は知的関心を高めてくれるものでしたか？	商（昼、夜）	
IV(10) 講義の進度は適切でしたか？	商（昼、夜）、言語（昼）	
IV(11) 講義の内容は卒業後役に立つと思いますか？	商（昼、夜）、企業法（昼、夜）	
V(2) 教師の話し方は明快でしたか？	企業法（夜）	社会情報（昼）
V(3) テキスト、プリントの使い方・説明は適切でしたか？	商（昼）	
V(4) 黒板、OHP、ビデオ装置等の使い方は適切でしたか？		企業法（昼、夜）
V(5) 教師は学生の反応を見ながら講義を進めていましたか？		社会情報（昼）
VI(1) この講義から多くのことを学びましたか？	商（昼）	
VI(2) 総合的に判断して、この講義にどの程度満足できましたか？	商（昼）	

授業に対する満足度は、基本的に5段階の評価であり、最も高い評価を5、最も低い評価を1として各授業の満足度平均点を計算し、それに関する統計量を表4-2に示す。表4-2は、各授業における満足度平均点（回収票における平均）をデータとして、講義型アンケートを実施した182科目における平均、標準偏差ならびにパーセント点を示したものである。例えば、「講義内容は当

初の授業計画に沿ったものでしたか？」という質問では、各授業の平均が4.4、散らばりを示す標準偏差が0.39である。また、90%点とは、授業182科目のうち上位10%の位置にある科目の満足度平均（上位10%のため182科目中、上位18.2位（データ補間））を示している。

表4-2 各授業の満足度平均点（5段階評価）の分布

質 問	平均	標準偏差	90%点	75%点	50%点	25%点	10%点
IV(1) 講義内容は当初の授業計画に沿ったものでしたか？	4.4	0.39	4.8	4.7	4.4	4.2	3.8
IV(2) 講義内容はよく準備されたものでしたか？	4.1	0.42	4.7	4.4	4.1	3.8	3.6
IV(3) 講義内容は理解しやすかったですか？	3.6	0.61	4.3	4.1	3.6	3.2	2.7
IV(4) 教師は講義内容に興味を持たせるよう工夫していましたか？	3.6	0.53	4.3	4.0	3.6	3.3	2.9
IV(5) 教師は学生の質問に丁寧に答えていましたか？	3.9	0.47	4.6	4.3	3.8	3.6	3.4
IV(6) 教師は熱意を持って講義していましたか？	4.0	0.44	4.6	4.3	4.0	3.7	3.5
IV(7) 講義内容は知的関心を高めてくれるものでしたか？	3.8	0.49	4.5	4.1	3.8	3.5	3.2
IV(8) 教師は新しい研究動向を講義に盛り込む努力をしていましたか？	3.7	0.44	4.3	4.0	3.7	3.4	3.2
IV(9) 履修前に比べて、この科目の内容に関心を持つようになりましたか？	3.7	0.52	4.4	4.0	3.7	3.4	3.1
IV(10) 講義の進度は適切でしたか？	3.8	0.44	4.3	4.1	3.8	3.5	3.3
IV(11) 講義の内容は卒業後役に立つと思いますか？	3.6	0.55	4.3	4.0	3.7	3.3	3.0
V(1) 教師は学生が講義に集中できるような教室環境を保つ努力をしていましたか？	3.8	0.48	4.5	4.1	3.8	3.5	3.2
V(2) 教師の話し方は明快でしたか？	3.9	0.56	4.6	4.3	3.9	3.5	3.1
V(3) テキスト、プリントの使い方・説明は適切でしたか？	3.8	0.48	4.5	4.2	3.8	3.5	3.3
V(4) 黒板、OHP、ビデオ装置等の使い方は適切でしたか？	3.6	0.51	4.3	3.9	3.6	3.2	2.9
V(5) 教師は学生の反応を見ながら講義を進めていましたか？	3.7	0.50	4.3	4.1	3.6	3.3	3.0
VI(1) この講義から多くのことを学びましたか？	3.8	0.48	4.5	4.1	3.8	3.5	3.2
VI(2) 総合的に判断して、この講義にどの程度満足できましたか？	3.7	0.55	4.4	4.1	3.8	3.3	3.0

注：講義型アンケートを実施した182科目における満足度平均点の状況を示したものである。